

布地の裁断ずれについて

相模女大短大 永井房子 ○田中百子 東京家政大家政 雲田直子

聖徳大短大 三石幸夫

目的 縫製作業を能率よく正確に行なうには、種々の要素が考えられるが布地の裁断も重要なポイントの1つである。とくに、布地の裁断にあたっては単に一枚の布地を裁断する以外に何枚も布地を重ねて一度に裁断する場合もある。そのさい、最上層と最下層の布地とでは布地がずれて裁断され、少ない縫い代の箇所では問題となることをしばしば経験する。

そこで、我々は裁断時の布地ずれを定量的にとらえることを試みた。すなわち布地の種類、組織、厚さ、糸密度、方向などの違いによる布地の裁断ずれについて検討した。

方法 試料布は組成、厚さ、糸密度、などの異なる市販の各種布地を用い布地の方向（たて、よこ、 $23^\circ$ 、 $45^\circ$ 、 $67^\circ$ 、 $135^\circ$  バイヤス）の違いによる裁断ずれ寸法を測定し、布地の物性と裁断ずれ寸法との関係について検討を行なった。

結果 裁断時の布地ずれは布地の種類、方向いずれの要因も関与するがやや方向の要因の影響が大きい傾向であった。

布地の方向によるずれ寸法はたて、よこ方向が小さく、バイヤス方向のずれ寸法が大きい傾向を示した。また、バイヤス方向では $45^\circ$  バイヤスのずれ寸法が小さい傾向をあらわした。

布地においては剛軟度の小さい軟らかい布地のずれ寸法が大きくなる傾向を示した。